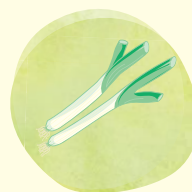




テクニカルダイアリー



黒腐菌核病について

J A 山武郡市管内におけるネギ黒腐菌核病(写真①)の発生は、土壌消毒や苗灌注等で年々被害が減ってきています。しかし、発生すると農薬等での防除が難しくなるため、発生前に対策を講じましょう(表①参照)。

①作付前にはバスアミド微粒剤やキルパー等を使用し、土壌消毒を行いましょう。被覆資材を使用して効果を高め、菌を死滅させてください。また、菌核が好む酸性土壌にならないよう、石灰等でpH値を改善しましょう。

②生育期間中は、病原菌が動き出す9月下旬以降に2回の防除を行うことで、被害の軽減が期待できます。防除を行



写真①
黒腐菌核病
(黒いカサブタ症状)

う際は、1回目と2回目それぞれ違う農薬を使用すると効果的です。また、効果を最大限発揮するために、上限散布液量が株元に染み渡るようにゆっくりと散布をしてください。

さび病について

さび病は春(5〜6月)と、秋(10〜12月)に発生が多く見られます。気温が20℃前半で降雨が多い時に発生が多くなり、20℃後半では少なくなります。肥料切れはさび病の発生を助長するため、追肥は計画的に行ってください。

さび病の病原菌は感染力が強く、被害残渣を放置すると翌年の感染源になるため注意が必要です。病斑の特徴は、葉に橙黄色の斑点が出現するため、初期段階を見逃さず早めに防除を行いましょう(表②参照)。

ハモグリバエB系統

近年、J A 山武郡市管内でもハモグリバエB系統(別系統)の

ると、発生が多くなります。

対策

ハウス内やハウス周辺の雑草が発生源となるため、除草を徹底しましょう。あわせて農薬のローテーション散布を心掛けてください。



写真③
アザミウマによる
果実の被害

ハダニ類・チャノホコリダニ

ダニ類は繁殖が早く、密度が高くなると防除が困難になるため、初期から散布ムラの無いように丁寧に防除しましょう。散布ムラがあるとその場所が発生源となり、再発生してしまいます。また、被害株の周囲の株は外見上健全であっても、すでに害虫は寄生しており、気付いた時には周辺にも広がっていると考えると、他の害虫に比べ薬剤抵抗性

発生がみられます。発育温度は20〜25℃で、春と秋に発生が多く見られます。従来のネギハモグリバエと比較すると、食害の程度が大きく、葉全体が白化して見えるため(写真②)、べと病等の病斑と間違えるケースもあります。幼虫は葉の内側に侵入し食害をするため、被害が増えるからでは防除効果が劣ります。早期発見に努め、成虫のハエ



写真②
ハモグリバエ
B系統による被害

を確認したら防除を行いましょう。粒剤と散布剤の両方を使用することで、防除効果をより高められます(表③参照)。

表① ネギの黒腐菌核病に登録のある薬剤

薬剤名	使用量・希釈倍率	使用時期	使用回数
バスアミド微粒剤	30〜60kg/10a	播種または定植14日前まで	1回
キルパー	60L/10a	播種または定植の10日前まで	1回
ディ・トラベックス油剤	30〜40L/10a	播種または定植の14日前まで	1回
パレード20フロアブル	灌注: 100倍 散布: 2000倍	灌注: 育苗期後半〜定植当日 散布: 収穫前日まで	1回 3回以内※

※灌注と散布あわせて3回以内

表② ネギのさび病に登録のある薬剤

薬剤名	希釈倍率	使用時期	使用回数
カナメフロアブル	4000〜8000倍	収穫前日まで	4回以内
オンリーワンフロアブル	1000倍	収穫14日前まで	3回以内
パレード20フロアブル	2000倍	収穫前日まで	3回以内
アミスター 20フロアブル	2000倍	収穫3日前まで	4回以内

表③ ネギのネギハモグリバエに登録のある薬剤

薬剤名	使用量・希釈倍率	使用時期	使用回数
ダントツ粒剤	3〜6kg/10a	収穫3日前まで	4回以内
アグロスリン乳剤	2000倍	収穫7日前まで	5回以内
ベネビアOD	2000倍	収穫前日まで	3回以内
リーフガード顆粒水和剤	1500倍	収穫7日前まで	2回以内

が発達しやすいので、系統の異なる薬剤でローテーション散布をしてください。

ハダニ類

卵から成虫までの発育期間は約10日です。おもに葉の裏側に寄生します(写真④)。



写真④
ハダニ類による葉の被害

チャノホコリダニ

卵から成虫までの期間は5〜7日と極めて短いです。成長点部の葉の隙間や、果実のヘタの隙間などに寄生します(写真⑤)。



写真⑤
チャノホコリダニによる果実の被害

表④ ナスに使用できる殺虫剤

薬剤名	ハダニ類	チャノホコリダニ	アザミウマ類	希釈倍率	使用回数
アフーム乳剤	●	●	●	2000倍	2回以内
コロマイト乳剤	●	●		1500倍	2回以内
グレーシア乳剤	●	●	●	2000倍	2回以内
コテツフロアブル	●	●	●(※)	2000倍	4回以内
ダニサラバフロアブル	●			1000倍	2回以内
ダニオーテフロアブル	●			2000倍	2回以内
ピラニカEW	●	●		2000倍	1回
マイトコーネフロアブル	●			1000倍	1回
モベントフロアブル	●	●	●	2000倍	3回以内(灌注含む)
サフオイル乳剤	●	●		300倍	回数制限なし

(※) ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマのみ適応

7月の分析経過について

合計1点	
残留農薬分析点数	多成分一斉分析
残	夏ネギ ……1点
留	
農	
薬	
分	
析	
点	
数	
土壌診断点数 ……合計88点	

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。